

身延・南部地域連携型中高一貫教育事業  
身延中学校・南部中学校・身延高等学校

# 連携型中高一貫教育通信

地域の将来を考える人材育成



南部中学校



身延中学校



身延高等学校

令和7年 7月発行

身延・南部地域連携型中高一貫教育推進委員会  
発行：山梨県立身延高等学校  
<http://www.minobu.kai.ed.jp>

## 中高6年間のキャリア教育

### ○教育理念

6年間を通して確かな学力と豊かな人間性を育み、地域と協働して「キャリア教育」を進め、次世代を担う人材を育成する。

### ○教育目標

#### ・学力の向上

計画的・継続的な教育を展開し、自主的・創造的な態度を育てる。

#### ・豊かな人間性の育成

豊かな心を育み社会性やコミュニケーション能力の伸長を図る。

#### ・地域との協働

地域への理解を深め、主体的に地域社会の形成に参画する態度を養う。

# 令和7年度連携型中高一貫教育事業の概要

確かな学力と豊かな人間性の育み、

地域と協働して

キャリア教育を進め、次世代を担う人材を育成

学力の向上

## 1. 中学校の授業アシスト（数学）

高校の教員が身延中、南部中の数学の授業をアシストしています。

## 2. 高校の授業アシスト（数学・英語）

両中学校の数学・英語の教員が、高校1年次生の授業をアシストしています。（4月～7月）

## 3. 中学生対象サマーセミナー（3教科）

高校の教員が中学3年生の希望者に対して、夏季休業中に高校で過去の高校入試問題等の対策講座を行います。国・数・英の三教科の講座を実施しています。

## 4. 中高相互授業参観

高校・中学校の教員がそれぞれの授業参観を行い、指導方法について研究します。

豊かな人間性の育成

## 5. 中高合同部活動

部活動での異年齢交流を通じた活動です。

今年度はソフトテニス部（男子）・バレーボール部（女子）・吹奏楽部・バトミントン部（同好会）が実施予定です。

## 6. ライフミュージアム

学校を「美術館」という発想で捉え、中高生やPTA、地域の作品展を通して交流を深め、文化レベルの向上を図ります。

## 7. 総合学科発表会

高校の総合学科発表会に中学生が参加し、将来について考える機会としています。

地域との協働

## 8. 防災セミナー

各校の代表生徒や希望生徒が参加して、「南海トラフ地震」に関する基礎学習を行い、地域においてリーダーとして防災活動を推進していく意欲や知識を持った人材を育成します。

## 9. 情報発信

保護者や地域の方々に連携型中高一貫教育に対する理解を深めていただくため、事業の報告を「**連携型中高一貫教育通信**」と**身延高校HP**で行います。（「**連携型中高一貫教育通信**」は年に2回発行）

# キャリア教育とは？

身延中学校、南部中学校、身延高校の連携型一貫教育事業は、主体的に未来を切り開く人材・地域社会へ貢献する人材を育てることを目的として、中高6年間の一貫したキャリア教育に取り組んでいます。その柱として身延高校ではコーディネーターを配置し、3校の調整を行い、各事業を展開しています。

キャリア教育とは、**社会を意識し、未来を想像し、自身と向き合うこと**です。社会において必要な思考力、表現力、コミュニケーション能力を培うには、高校3年間だけでは足りません。中高連携教育事業を通じて、生徒たちの「**自分ごと化**」（**当事者意識を持って、自分で考え、物事に取り組むことができるか**）を促し、未来や社会を見据え、考える力を育てるための事業を展開しています。



中学校授業アシスト（数学）



高校授業アシスト（数学）



高校授業アシスト（英語）



サマーセミナー



ライフミュージアム



部活動合同練習



防災セミナー

## 「地域貢献」より深い学びのために

身延高校では、身延町役場をはじめとする地域行政機関や大学などにご協力いただき、質の高い学びで、将来自分の住む地域に貢献できる人材を育成しています。中高連携事業の6年間のキャリア教育は、その先を見据え、生徒自らが、より深い学びに向かうことができるようにするためのものでもあります。

### 年間計画について

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
	三校 相互授業参観（南部中） 防災セミナー担当 者会議	部活動合同練習開始 相互授業参観（身延中 高校）	防災セミナー	サマーセミナー		相互授業参観 ライフミュージアム （身延中 南部中 身延高校）			相互授業参観（南部中）	総合学科発表会

# 授業アシストとは

授業アシストには2種類あります。

ひとつは「中学授業アシスト」です。高校の数学の先生が授業に参加して、中学生の学習理解を深めるために授業をサポートします。

ふたつめは「高校授業アシスト」です。中学校の先生が高校の授業に参加して高校1年次生の学習の補助をします。今年度は英語、数学の先生が来てくれています。

## 先生方の声

身延高校 遠藤佳宏先生にTTの形で授業に入っただき机間巡視等での助言等をお願いしています。本校の生徒の中には、数学が得意な生徒も苦手な生徒も存在しており、一斉授業だけでは個々のレベルアップは簡単ではないと感じていました。その中で、得意な生徒には、高校教員という視点からより発展的な問題や問いを、苦手な生徒には取りかかりやすいような発問や声かけを行っていただくことで一人ひとりにあった時間にする事ができていると感じています。加えて、生徒が受験生ということもありますので高校と繋がり深い単元を学習する際には、遠藤先生に高校数学への興味や関心が持てるよう課題を用意して授業をしていただくということも実施しました。

また、私自身の教員歴が浅いため、授業で上手いかなかった部分や教材研究で悩んでいるところなどを相談させてもらっています。授業の流れや課題の提示の仕方、今回の授業のポイントはどこのかなどを細かく教えていただけるので勉強になっています。

このような点から中学校授業アシストは、生徒に対してより手厚い指導を行うことができると同時に教員同士のスキルや指導力の向上も見込める取り組みだと考えます。

(南部中学校 石原一樹先生)

今年度の身延中学校の授業アシストは、身延高校から小河内照仁先生に参加していただいています。学習理解を深めるためのアシスト授業には、多くの効用があり、中学生の学力の向上に大きな影響を与えます。

まず、高校の先生ならではの専門知識の提供という点で、高校で習う「たすきがけ」による因数分解の授業を5月にしていただきました。中学生に対してより高度な問題の解決に必要な手段を提供してもらい、中学生は数学のさらなる基礎固めの必要性を感じたと思います。同時に、学習の連続性が保たれるという利点もあります。中学数学から高校数学への学習の連続性が保たれることで、スムーズな進学が期待できます。中学生のうちから高校の学習内容に触れることで、進学後の学習に対する不安が軽減されます。

次に、高校の先生が授業に参加することで、中学生は将来の学習に対する意欲が高まり、学習への興味が増しています。特に、将来の進路を考える上で、高校の先生から直接話を聞くことは大きな刺激となります。

また、高校の先生が加わることで、個別指導が充実し、各生徒の理解度に応じたサポートが可能になります。これにより、学習の遅れを取り戻すことができるだけでなく、得意な生徒にはさらに高度な内容を教えることができます。

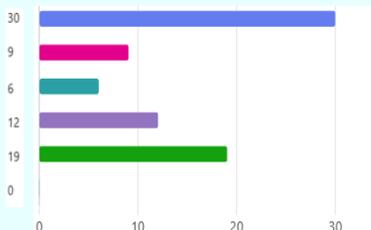
中学授業アシストは、中学生の学習理解を深めるだけでなく、将来の学習意欲を高める重要な取り組みです。今後もこのような取り組みが続くことを期待します。中学生の学習環境をより良くするために、中学授業アシストは欠かせない存在となるでしょう。

(身延中学校 渡邊吉朗先生)

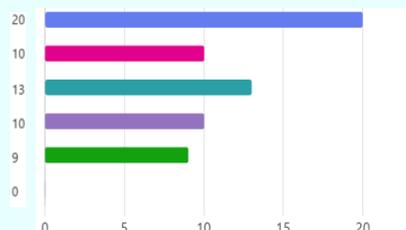
## 生徒の声とアンケート

身延中学校・南部中学校の生徒と身延高校1年次生を対象に、授業アシストに関する、アンケートを実施しました。(複数回答 回答数：中学校延べ78人、高校生延べ29人)

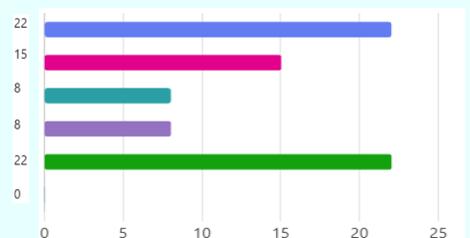
授業アシストの感想 (身延中3年生41名)



授業アシストの感想 (南部中3年生37名)



授業アシストの感想 (高校1年次生29名)



### 中学生

- 数学の授業で知識や技能が身についた
- 論理的に考えたり表現したりすることができるようになった
- 高校の先生が授業に入っていたので、緊張感をもって勉強できた
- 先生が教室内に複数いることで質問がしやすくなった
- 高校の勉強に興味持つようになった

### 高校生

- 数学の授業で知識や技能が身についた
- 英語の授業で知識や技能が身についた
- 論理的に考えたり表現したりすることができた
- 中学に先生が授業に入っていたので、緊張感をもって勉強できた
- 分からないところがあるときに質問がしやすくなった